

和歌山市の学校情報セキュリティの取り組み

和歌山市立教育研究所 専門教育監補 角田 佳隆

y_sumita@mac.com

<http://www.wakayama-wky.ed.jp/>

キーワード：情報セキュリティポリシー

1. はじめに

個人情報の取り扱いについて、一人ひとりの意識が高まってきています。そのような社会背景で学校でも情報の取り扱いについての再確認を行うことが必要になってきました。和歌山市では、以前から文書や、電子化された文書、データなどの取り扱いについて、さまざまな取り組みをしてきましたが、今回、教職員一人ひとりが、セキュリティポリシーについてその内容を十分理解し運用されているかなど再確認することができました。

2. 現 状

和歌山市立小中学校間を結ぶ教育情報ネットワーク「きいねっと」があり各種情報はネットワークを通じてやり取りをしています。

情報管理については、和歌山市情報セキュリティポリシーを基に「和歌山市教育情報ネットワーク（きいねっと）セキュリティ手順書」に基づいた各校における情報管理を実施しています。

また、文書管理については、教育委員会で「重要物品管理マニュアル」を作成し、学校における重要物品、文書などの管理を実施しています。

しかし、教員の情報セキュリティ意識の向上を今後とも実施していく必要があると考えています。

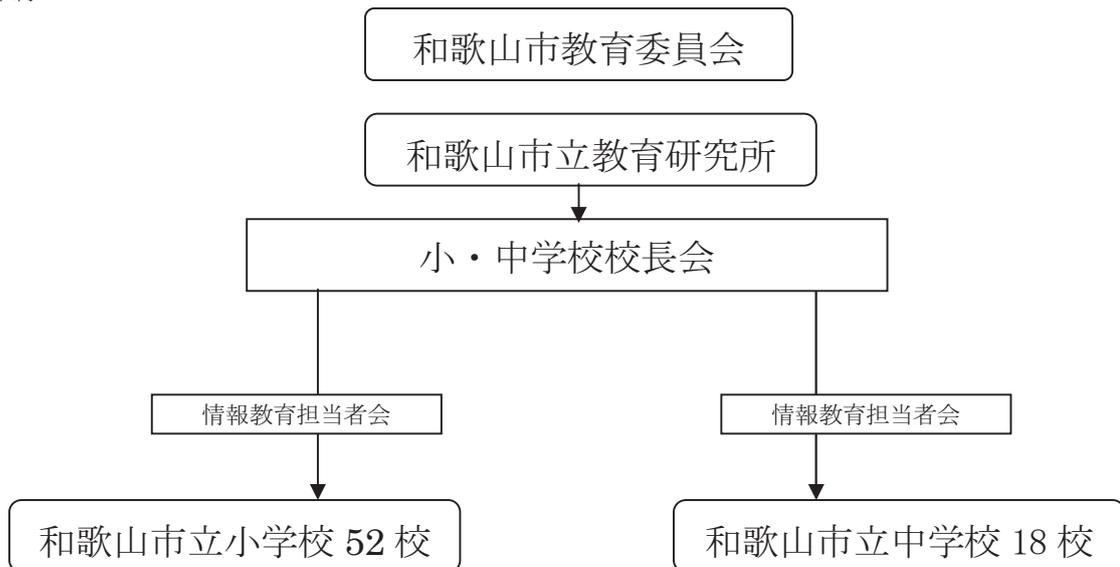
学校において、教員一人ひとりが、情報管理の重要性を再認識する必要があり、さらにその管理方法について再確認することにより、個人情報を含む文書などの管理方法についてより理解を深めることができると考えています。

3. 実施体制

- ・実施学校数

和歌山市立中学校 18校 1分校，小学校 52校 3分校

- ・体制



4. 取り組みの内容

和歌山市では、学習指導要録などの公文書および重要書類については、「和歌山市立（幼稚園・小学校、中学校）における重要物品管理マニュアル」を作成し、学校での文書管理を実施しています。

文書書類以外のワープロ文書や成績データなどのファイルなど（電子化された書類など）の取り扱いについては、和歌山市情報セキュリティポリシーを基に和歌山市教育情報ネットワークきいねっと情報セキュリティ手順書を策定し運用しています。

今回の事業で、今あるセキュリティポリシーの見直しと、学校における教職員一人ひとりの意識の向上を図ることをめざしています。

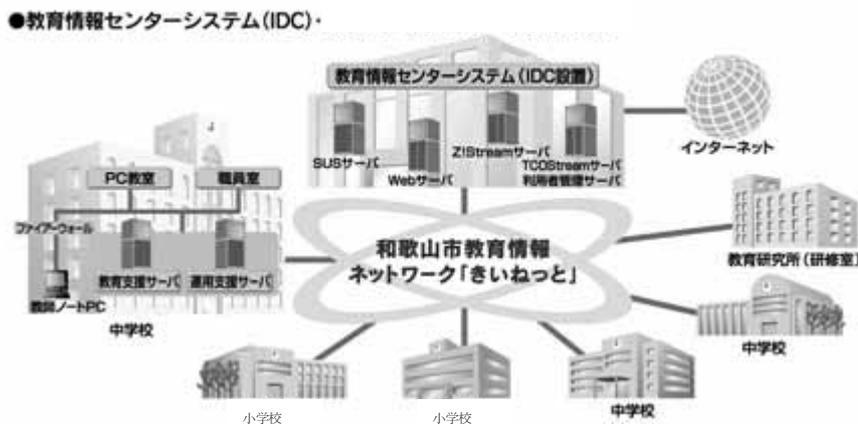
教職員の意識を高めるために各校の情報教育推進を担う情報教育担当者会で、今回の事業についての説明を実施し、情報セキュリティハンドブックに沿って各校で文書書類以外のワープロ文書や成績データなどのファイル（電子化された書類など）についての取り扱いなどを再確認し現状を把握する取り組みを実施しました。

今まで、文書ファイルなどは、作成したものの保管に注視されがちでしたが、それを作成するために収集した資料やデータ、作成途中文書などの取り扱いについて再度各校で検討し、今後のセキュリティポリシーの見直しに役立ていきたいと考えています。

平成17年度に、中学校18校にファイルの暗号化可能なUSBメモリーを複数配布し、また、各中学校の教員の使用するパソコンは、職員室に配置しているファイアーウォール下のネットワークに接続することで校内の他のパソコンなどからの不正アクセスを遮断するようにしております。

また、情報教育センター（IDC）からは、各パソコンの使用情報、アクセス情報の管理を実施し情報の流れの監視を行っています。このように、教職員がより安全にパソコンで校務をする環境を整えることも重要であると考えています。

また、今後、個人認証システムにICカード、UBS認証キーなどを使用することでよりセキュリティを高め教職員が安心して使用できるネットワーク環境を整備したいと考えています。



5. 次年度以降の予定

平成19年度に情報セキュリティポリシーの見直しの結果を反映させ、教職員のセキュリティ意識向上のための研修を実施していくことを計画しています。また、より安心して校務ができるネットワーク環境の整備を進めていきたいと考えています。